



一般公開講演会同時開催 ～創作浄瑠璃 竹本仁太夫～

令和7年11月22日(土) 14時30分～ 南会津町田島「御蔵入交流館・文化ホール」

創作浄瑠璃

『全金欲没神棚頼』(すべてかね、よくに、おぼるるかみだのみ)

福井県に伝わる民話『すべて金』が原作。

昔ある村に、甚六という男がいた。仕事を嫌い、そのくせ金だけは一丁前に欲しがり、神棚を毎日ピカピカに磨いては願い事を繰り返している怠け者。

ある日、神棚から現れた神様に「どのくらいの金欲しい?」と聞かれた甚六は「蔵いっぱい金」と答えると、次の日にはそれが正夢になった。甚六の喜びも束の間、またもや神様を呼び出し、「金いっぱい蔵を、畑いっぱい欲しい」と願い、これまた正夢となる。なおも欲望が止まらない甚六は、ついに「すべて金にして欲しい」と神様に言ってしまった。

この「すべて金」という願い事が、甚六に予想外の悲劇をもたらす事となり…。

「税を考える事は、お金について考える事」と、本講演に合わせ、急遽自作した最新作です。お楽しみください。

竹本仁太夫 (たけもと・ひとたゆう)

本名・室井一仁。1988年、南会津町出身。2000年、田島祇園祭屋台歌舞伎の子供役者となる。翌年、大歌舞伎義太夫「竹本」の重鎮であった故・竹本綾太夫師のスカウトを受け、13歳で義太夫語りとしてデビュー。役者引退後の2005年には、太神の三味線による弾き語り奏者となった。

2011年からは、檜枝岐歌舞伎「千葉之家花駒座」の義太夫として始動。

2014年から、三味線方・野澤松也師が創始の「創作浄瑠璃」の演奏講演を、県内外で多数勤める。詞・曲・演奏の全てを自ら手掛けた作品もある。

このほか、竹本乾太夫師の三味線方「野澤仁一郎」として、地方の人形浄瑠璃や、国立劇場、浅草公会堂などでの日本舞踊公演にも出演多数。

